



## 2023年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年11月14日

上場会社名 株式会社ビーグリー 上場取引所 東  
 コード番号 3981 URL https://www.beaglee.com  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉田 仁平  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理本部長 (氏名) 三吉 達治 (TEL) 03-6706-4000  
 四半期報告書提出予定日 2023年11月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年12月期第3四半期の連結業績(2023年1月1日~2023年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年12月期第3四半期	14,452	3.0	1,271	△8.2	1,231	△2.3	615	15.9
2022年12月期第3四半期	14,035	△0.5	1,385	46.4	1,260	50.0	531	57.1

(注) 包括利益 2023年12月期第3四半期 615百万円( 15.9%) 2022年12月期第3四半期 531百万円( 57.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年12月期第3四半期	102.56	101.97
2022年12月期第3四半期	89.10	88.24

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年12月期第3四半期	18,424	6,869	37.3
2022年12月期	19,039	6,314	33.2

(参考) 自己資本 2023年12月期第3四半期 6,869百万円 2022年12月期 6,314百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年12月期	—	0.00	—	12.00	12.00
2023年12月期	—	0.00	—	—	—
2023年12月期(予想)	—	—	—	15.00	15.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注) 当社は定款において第2四半期末日及び期末日を配当基準日と定めておりますが、現時点では当社の剰余金の配当は期末配当の年1回を基本方針としております。

## 3. 2023年12月期の連結業績予想(2023年1月1日~2023年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,622	4.9	1,822	3.8	1,766	9.8	900	35.4	150.80

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P9「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年12月期3Q	6,243,986株	2022年12月期	6,236,342株
-------------	------------	-----------	------------

② 期末自己株式数

2023年12月期3Q	234,706株	2022年12月期	238,985株
-------------	----------	-----------	----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2023年12月期3Q	6,003,453株	2022年12月期3Q	5,963,440株
-------------	------------	-------------	------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における日本経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和され、感染症の分類も5類感染症へ移行し、国内外での人流も回復するなど、感染症対策と経済活動の両立により、社会経済活動の正常化が進みつつあります。一方で、緊迫した世界情勢に加え、不安定な円相場やインフレによる経済停滞が懸念され、依然として不透明な事業環境が続いております。

当社を取り巻く事業環境は、紙の出版市場が縮小している一方で、電子出版市場は継続的に拡大しており、インプレス総合研究所「電子書籍ビジネス調査報告書2023」によると、2023年度の成長率は8%程度になると予測されており、今後も電子書籍及び電子コミックの市場規模はゆるやかな拡大が続くことが予想されております。

このような市場環境の中で、プラットフォームセグメントにおいては、電子コミック配信サービス「まんが王国」のブランド構築に注力しつつ効率的な投資を行ったことで、「まんが王国」の売上高は前年同期比3.3%増となりました。また、コンテンツセグメントにおいては、継続的なデジタル成長による安定的な利益創出を実行しました。

さらに、コンテンツプロデュースカンパニーとしての機能強化や成長加速のため、2021年11月に資本業務提携契約を締結した日本テレビ放送網株式会社（以下、「日本テレビ」という。）との協業案件を継続的に推進いたしました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は14,452,354千円（前年同期比3.0%増）、営業利益は1,271,596千円（前年同期比8.2%減）、経常利益は1,231,297千円（前年同期比2.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は615,724千円（前年同期比15.9%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### (プラットフォームセグメント)

プラットフォームセグメントの主力サービスである「まんが王国」においては、ユーザーの訪問・定着・課金の流れを促し、課金者数と顧客単価を上げるべく、お得感を訴求するキャンペーンや幅広いユーザー層獲得のための販売促進活動を積極的に行いました。

さらに、原作付きのコミカライズ作品や異世界ファンタジー等の人気ジャンル作品といった“ここだから読める”作品の創出に注力いたしました。

この結果「まんが王国」は、お得感No. 1（2023年4月に実施された第三者調査機関による電子コミックサービスに関する調査で最もお得に感じるサービス第1位を獲得。）のコミック配信サービスとして、2023年5月に累計ダウンロード数が20億冊を突破、2023年10月に会員登録者数が800万人を突破いたしました。

また、国内コミック配信事業で培ったノウハウを生かし、諸外国の中でも、特に拡大が予想されている北米の電子コミック市場において、2023年6月に北米向けコミック配信サービス「yomoyo（ヨモヨ）」の提供を開始いたしました。

小説投稿サービス「ノベルバ」においては、投稿作品を原作としたコミカライズ・メディアミックス展開を推進するため、アプリ利用者数及び投稿作品数の増加を目的とした施策の実施や小説コンテストを開催いたしました。さらに、オリジナルIPの創出を目的に、イベント関連事業や音楽・映像関連事業等を多角的に展開する株式会社アミューズとの協業を開始し、最初の取り組みとして、「ノベルバ」内にて『目指せメディアミックス！「現代恋愛×ファンタジー」小説コンテスト』を開催いたしました。

日本テレビとの取り組みにおいては、「まんが王国」にて昨年末より連載を開始した漫画家発掘ドキュメントバラエティー「THE TOKIWA」発のコミカライズ作品「ようこそ！パラダイス劇場へ」の電子コミック版が完結し、2023年8月に紙書籍を販売いたしました。

費用面においては、安定した広告市況の中で広告出稿を行ったことで、広告宣伝費を中心に販売費及び一般管理費が増加いたしました。

これらの結果、当セグメントの売上高は9,467,569千円（前年同期比2.1%増）、営業利益は453,141千円（前年同期比14.0%減）となりました。

## (コンテンツセグメント)

コンテンツセグメントにおいては、紙出版市場の縮小を鑑み、紙出版にかかるコストコントロールの実施に加え、デジタルコンテンツを中心に、発刊点数の増加、電子書店ごとの特性や読者ニーズに沿った販売促進活動を積極的に行いました。

これにより、デジタル出版においては、売上高が前年同期比7.7%増となりましたが、一方で、紙出版においては、返品率が増加し、利益率が低下する等、引き続き対策が必要な状況にあります。

このような状況の中で、読者の嗜好性に合わせたコンテンツの創出とジャンルの拡大を推進し、SNSや動画プラットフォームを利用したプロモーションを強化した結果、ぶんか社が得意とするBL、TLジャンルを中心とした女性向けコミックジャンルの作品や近年創刊したデジタルコミック誌からの作品の売上が堅調に推移いたしました。

また、BLコミック誌「GUSH」が20周年を迎えたことを期に、コラボカフェや「GUSH20周年記念展-with LOVE-」の開催といった様々な施策を実行いたしました。

さらに、異世界&令嬢作品に特化した、女性向けライトノベルのコミカライズレーベル「BKコミックスf」では「ノベルバ」と共同で「第2回BKコミックスf令嬢小説コンテスト」を開催する等、セグメント間の連携を強化するとともに、レーベルの特徴を活かした作品の創出に注力いたしました。

このほか、ぶんか社の人気グルメ漫画「半熟ファミリア 腹ペコ兄妹の熟成レシピ」が日本テレビホールディングス株式会社の子会社である株式会社日テレ アックスオン制作にてテレビドラマ化いたしました。また、2023年6月には、ぶんか社刊の「お姫様クラブ」がフジテレビ系の番組内にて映像化されました。

これらの結果、当セグメントの売上高は5,100,280千円(前年同期比4.4%増)、営業利益は817,895千円(前年同期比4.7%減)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は18,424,439千円となり、前連結会計年度末に比べ615,492千円減少しました。

流動資産は8,828,747千円となり、前連結会計年度末と比べ20,990千円増加しました。これは主に、売掛金が51,355千円、未収還付法人税等が101,106千円減少した一方で、現金及び預金が110,676千円、前払費用が53,781千円増加したことによるものです。

固定資産は9,595,691千円となり、前連結会計年度末と比べ636,483千円減少しました。これは主に、無形固定資産が638,156千円減少したことによるものです。

## (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は11,554,677千円となり、前連結会計年度末に比べ1,170,562千円減少しました。

流動負債は8,311,869千円となり、前連結会計年度末に比べ364,734千円減少しました。これは主に、支払手形及び買掛金が227,960千円増加した一方で、未払金が89,759千円、未払法人税等が222,366千円、未払消費税等が122,567千円、返金負債が157,400千円減少したことによるものです。

固定負債は3,242,808千円となり、前連結会計年度末と比べ805,828千円減少しました。これは主に、長期借入金765,000千円減少したことによるものです。

## (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は6,869,761千円となり、前連結会計年度末に比べ555,069千円増加しました。これは主に、利益剰余金が542,593千円増加したことによるものです。

この結果、自己資本比率は、37.3%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間における業績は、紙出版における収益の悪化や、広告宣伝費等の販売費及び一般管理費の増加により、通期業績予想をやや下回る進捗での着地となりました。第4四半期連結会計期間においては、年末商戦に加え、新作タイトルの配信が複数控えていることから、2023年2月14日の「2022年12月期決算短信」で公表いたしました連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,217,980	4,328,657
受取手形	36,910	40,629
売掛金	4,341,938	4,290,583
商品及び製品	57,759	61,106
貯蔵品	793	649
前渡金	2,589	9,018
前払費用	48,218	101,999
未収入金	7,313	1,729
未収還付法人税等	105,588	4,481
その他	480	651
貸倒引当金	△11,817	△10,758
流動資産合計	8,807,757	8,828,747
固定資産		
有形固定資産		
建物	14,662	14,662
建物附属設備	70,634	73,662
工具、器具及び備品	149,020	160,507
減価償却累計額	△165,549	△179,307
減損損失累計額	△1,602	△1,602
有形固定資産合計	67,164	67,922
無形固定資産		
のれん	8,919,020	8,476,033
ソフトウェア	191,638	137,616
コンテンツ資産	273,834	253,521
ソフトウェア仮勘定	2,298	536
コンテンツ資産仮勘定	4,319	3,284
著作権	590,000	472,000
その他	1,282	1,245
無形固定資産合計	9,982,395	9,344,238
投資その他の資産		
敷金及び保証金	108,492	108,492
繰延税金資産	54,292	54,292
その他	19,830	20,745
投資その他の資産合計	182,615	183,531
固定資産合計	10,232,175	9,595,691
資産合計	19,039,932	18,424,439

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,310,535	3,538,495
短期借入金	2,000,000	2,000,000
1年内返済予定の長期借入金	1,020,000	1,020,000
未払金	463,785	374,025
未払費用	34,785	36,696
未払法人税等	496,755	274,388
未払消費税等	166,692	44,124
契約負債	665,215	594,486
返金負債	417,866	260,466
預り金	35,520	44,464
その他	65,447	124,720
流動負債合計	8,676,604	8,311,869
固定負債		
長期借入金	3,825,000	3,060,000
繰延税金負債	223,636	182,808
固定負債合計	4,048,636	3,242,808
負債合計	12,725,240	11,554,677
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,893,301	1,896,359
資本剰余金	1,892,826	1,895,859
利益剰余金	2,885,192	3,427,786
自己株式	△356,628	△350,242
株主資本合計	6,314,691	6,869,761
純資産合計	6,314,691	6,869,761
負債純資産合計	19,039,932	18,424,439



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2022年1月1日 至2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自2023年1月1日 至2023年9月30日)
売上高	14,035,953	14,452,354
売上原価	9,062,258	9,380,975
売上総利益	4,973,695	5,071,378
販売費及び一般管理費	3,588,380	3,799,782
営業利益	1,385,314	1,271,596
営業外収益		
受取利息	24	24
受取配当金	87	107
受取返戻金	2,112	2,090
助成金収入	454	—
還付金収入	201	—
受取賠償金	—	1,908
その他	365	327
営業外収益合計	3,246	4,458
営業外費用		
支払利息	91,578	39,330
融資手数料	34,211	2,874
その他	2,465	2,552
営業外費用合計	128,256	44,757
経常利益	1,260,305	1,231,297
特別損失		
減損損失	115,236	—
損害賠償金	1,240	—
特別損失合計	116,476	—
税金等調整前四半期純利益	1,143,829	1,231,297
法人税、住民税及び事業税	612,478	615,573
法人税等合計	612,478	615,573
四半期純利益	531,350	615,724
親会社株主に帰属する四半期純利益	531,350	615,724

四半期連結包括利益計算書  
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)
四半期純利益	531,350	615,724
四半期包括利益	531,350	615,724
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	531,350	615,724

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年3月29日 定時株主総会	普通株式	71,968	12.00	2022年12月31日	2023年3月30日	利益剰余金

## 2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

## 3. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、2023年3月29日開催の取締役会決議に基づき、2023年4月28日付で、当社の取締役に対する譲渡制限付株式報酬として自己株式4,279株の処分を行いました。この結果、当第3四半期連結累計期間において利益剰余金が1,161千円、自己株式が6,385千円減少し、当第3四半期連結会計期間末において利益剰余金が3,427,786千円、自己株式が350,242千円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

## 税金費用の計算

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

## 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大に伴う会計上の見積り

前連結会計年度の有価証券報告書の(追加情報)に記載した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響に関する仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自2022年1月1日至2022年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	プラットフォーム セグメント	コンテンツ セグメント	計		
売上高					
自社配信	8,604,568	—	8,604,568	—	8,604,568
他社配信	327,145	3,060,601	3,387,746	—	3,387,746
紙出版	—	1,365,787	1,365,787	—	1,365,787
その他	339,413	338,436	677,850	—	677,850
顧客との契約から生じる収益	9,271,128	4,764,825	14,035,953	—	14,035,953
外部顧客への売上高	9,271,128	4,764,825	14,035,953	—	14,035,953
セグメント間の内部売上高 又は振替高	90	119,255	119,346	△119,346	—
計	9,271,219	4,884,080	14,155,299	△119,346	14,035,953
セグメント利益	527,078	858,025	1,385,104	210	1,385,314

(注) 1. セグメント利益の調整額210千円は、全社費用及びセグメント間取引相殺消去額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「プラットフォーム」セグメントにおいて、一部のゲームに関するサービスに係る無形固定資産について減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において115,236千円であります。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	合計 (注) 2
	プラットフォーム セグメント	コンテンツ セグメント	計		
売上高					
自社配信	8,886,074	—	8,886,074	—	8,886,074
他社配信	297,086	3,311,588	3,608,675	—	3,608,675
紙出版	—	1,319,448	1,319,448	—	1,319,448
その他	283,589	354,566	638,155	—	638,155
顧客との契約から生じる収益	9,466,751	4,985,602	14,452,354	—	14,452,354
外部顧客への売上高	9,466,751	4,985,602	14,452,354	—	14,452,354
セグメント間の内部売上高 又は振替高	818	114,677	115,496	△115,496	—
計	9,467,569	5,100,280	14,567,850	△115,496	14,452,354
セグメント利益	453,141	817,895	1,271,036	560	1,271,596

(注) 1. セグメント利益の調整額560千円は、全社費用及びセグメント間取引相殺消去額であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。